

建築ITコミュニケーションデザイン論

#1 はじめに、講師紹介

本江正茂

2011-05-11 (水)

担当教員 本江正茂

一般用：motoe@archi.tohoku.ac.jp

レポート提出用：motoe2+aitcd@gmail.com

<http://www.motoelab.com/>

http://twitter.com/masashige_motoe

年次・学期 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻博士課程前期

水曜3限 (13:00~14:30)

環境科学研究科講義棟1階大講義室 (工学部図書館横断歩道向かい)

講義の趣旨

建築とITコミュニケーションを統合的なひとつのデザインの問題として考える。

オフィス、学校、図書館などの建築空間の多くは、その内部で情報の授受を行うことが主要な役割であった。しかし、近年の情報技術の革新によって、建築空間と情報の関係は大きく変化した。これからの空間と情報のデザインを考えていくためには、両者の相互作用を根本的に見直す必要がある。両者は別々の分野ではなく、そのデザインにあたっては総合的に検討されなければならない。この講義では、テクノロジーのみならず、社会学、芸術、哲学、認知科学などの分野にも視野を広げ、空間と情報にかかわる諸理論と事例を展望する。

受講に当たっては、必ずしも予備知識は必要ない。履修後は、空間と情報の相互作用に関する常識的知識の一端を獲得することによって、両者を見渡した地点から、新たな問題を考えはじめられるようになることが期待される。

2011年度のスケジュール

2011年 5月 11日 (水)	1	はじめに、教員紹介
2011年 5月 18日 (水)	2	データの表象
2011年 5月 25日 (水)	3	空間の表象
2011年 6月 1日 (水)	4	身体と空間 その1 視覚
2011年 6月 8日 (水)	5	身体と空間 その2 意味や価値は世界のどこにあるか?
2011年 6月 15日 (水)	6	速度とスケール
2011年 6月 22日 (水)	7	情報の反意語は何か?
2011年 6月 29日 (水)	8	情報化社会という神話
2011年 7月 6日 (水)	9	情報と都市、時間と空間の再編成
2011年 7月 13日 (水)		休講 (インドネシア出張)
2011年 7月 20日 (水)		休講 (修士設計中間発表)
2011年 7月 27日 (水)		休講 (オープンキャンパス)
2011年 8月 3日 (水)	10	コンピュータとアーキテクチャ
2011年 8月 10日 (水)	11	BIMとFM
2011年 9月 7日 (水)	12	アルゴリズムとパターン

評価方法

期末レポートを評価の主材料とする。

すぐれたレポート等はウェブサイト等で公開することがある。

教科書・参考書・リンク

教科書は特に指定しない。

授業では、原則として毎回ハンドアウトを配布する。ハンドアウトは各回授業終了後にウェブサイトに置くので、欠席した場合などはダウンロードすること。研究室に取りに来てでも予備はない。

講義内容に関する疑問、質問、感想、意見など、随時下記のメールで受け付ける。

motoe@archi.tohoku.ac.jp

参考文献：各講義でトピックにふさわしい参考文献を指示する。

ウィリアム・J・ミッチェル『e-トピア：新しい都市創造の原理』渡辺俊訳、丸善、2003

ウィリアム・J・ミッチェル『シティ・オブ・ビット：情報革命は都市・建築をどうかえるか』掛井秀一＋田島則行＋仲隆介＋本江正茂 訳、彰国社、1996

ウィリアム・J・ミッチェル『ME++：サイボーグ化する私とネットワーク化する世界』渡辺俊訳、NTT出版、2007

坂村健・鈴木博之編『バーチャル・アーキテクチャー：建築における「可能性と不可能の差」』東京大学総合研究博物館、1997

港千尋『第三の眼：デジタル時代の想像力』廣済堂、廣済堂ライブラリー002、2001

鈴木明『インタラクショナルデザインノート』神戸芸術工科大学大学院、2003

原研哉『デザインのデザイン』岩波書店、2003

阿部仁史、小野田泰明、本江正茂、堀口徹『プロジェクト・ブック』彰国社、2005

本日の課題：

この科目を履修するにあたって、何を学ぶことを期待しているか、200字～800字程度で書き、次回の講義までに電子メールで送ってください。忘れないうちに書きましょう。本文中に氏名と学籍番号を明記すること。宛先：motoe2+aitcd@gmail.com

以上